

船舶産業の変革実現のための検討会について

目的

- 今後、カーボンニュートラル船・自動運航船をはじめとする次世代船舶への転換が求められる中、世界的な船舶の建造需要の増加が見込まれる一方で、我が国船舶産業の技術・供給基盤は盤石とはいえず、急速な人口減少の中での人材確保という大きな課題にも直面している
- 我が国船舶産業が引き続き船舶の安定供給によって国民生活や経済安全保障を支えていくためには、生産性・稼ぐ力が高く若者を含む働き手にとって魅力ある産業に生まれ変わるためのこれまでにない変革が必要
- 目指すべき船舶産業の姿を明確化して2030年に達成すべき目標(生産性・建造量等)を設定するとともに、それを実現するための変革のロードマップを作成するため、検討会を立ち上げる

検討事項

- ① 船舶産業を取り巻く**現状と将来のニーズ**の分析
 - ✓ 世界の船舶建造需要、日本の船舶供給体制、中韓の動向
 - ✓ デジタル技術の進展と船舶産業への活用の可能性
 - ✓ 次世代船舶を受注・建造する際に求められる技術力・生産性
 - ✓ 人手・人材不足の現状と不足の要因、今後の見通し、他産業の動向
- ② 将来のニーズに対応するために2030年に目指すべき**船舶産業の姿**・達成すべき**目標**
 (例: バーチャル・エンジニアリングの実現、他産業と比較して魅力ある職場の実現、これらの姿のイラスト化)
- ③ 目指すべき船舶産業の姿を実現し、目標を達成するための課題と対応策をまとめた**変革のロードマップ**
 (例: 業界がやること、国がやること(変革に必要な支援、制度の見直しや検査のあり方等)、産学官が連携してやること等を時系列に整理)

スケジュール

2023年5月	第1回検討会	①の検討	※検討会の間に適宜作業チームを結成し、主要課題を検討する
2023年7-8月	第2回検討会	②・③の検討	
2023年10-11月	第3回検討会	②・③の検討	
遅くとも年度内	第4回検討会	2030年に目指すべき船舶産業の姿、2030年目標、変革のロードマップのとりまとめ	